

2026 年春期

スイス国立チューリッヒ芸術大学

教授によるマスタークラス

Zürcher Hochschule der Künste Professor Master Class

要 項



主催 株式会社東京国際ツアーズ

後援 一般社団法人 東京国際芸術協会

<実施概要>

スイス国立チューリッヒ芸術大学教授陣の企画によるマスタークラスが 2026 年 3 月に開催されます。教授陣は高い知識をもち、現役の音楽家としても活躍する専門家で構成され、その多くは世界中での演奏実績をお持ちであると共に国際コンクールの審査員としても活躍されています。スイス国立チューリッヒ芸術大学は 1873 年に設立され、153 年の歴史を持つ芸術大学です。世界的に有名な音楽家(チャイコフスキー国際バイオリンコンクール優勝者神尾真由子・ショパン国際ピアノコンクール優勝者ユリアンナ・アウデーエフ等)を輩出し、素晴らしい素質を持った音楽家が多く在籍しております。希望者には現地留学事情、住居等の生活事情についての情報伝達、チューリッヒ芸術大学受験に際しての情報伝達も可能です。また、既に活躍されている音楽家の方々にとっても、様々な教授のレッスンを聴講することは今後の指導方法に大きく影響を与えることと思います。校内には音楽教室が併設されており青少年の音楽教育にも力を入れていますし、観光にも適した場所のため親子でご参加の方々にも充実した日々をお過ごし頂けることでしょう。これまでに 10 名を超える方々が本マスタークラスを経てチューリッヒ芸術大学に入学した実績がございます。

<開催地>

スイス国立チューリッヒ芸術大学（スイス・チューリッヒ）

※ 一部楽器のレッスンについては、教授側の都合によりベルン芸術大学にて開催する場合がございます。

<マスタークラス日程>

日程 2026 年 3 月 3 日（火）～3 月 7 日（土）

※受講希望者の専攻および現地教授陣のスケジュールにより決定いたします。

<マスタークラス参加費> ※レートは、費用ご請求書発行時（お申し込み受諾後）のレートを適用させていただきます

申込金 100 スイスフラン （2025 年 10 月時点 1 スイスフラン約 193 円換算 19,300 円）

受講費 500 スイスフラン （2025 年 10 月時点 1 スイスフラン約 193 円換算 96,500 円） ※聴講費を含みます

※**室内楽は 750 スイスフラン** （2025 年 10 月時点 1 スイスフラン約 193 円換算 144,750 円）

追加レッスン 250 スイスフラン／1 レッスンあたり（同時通訳料込み）

海外で音楽を学ぶという貴重な機会を有意義に過ごしていただくため、教授陣のご厚意により特別に追加レッスンの時間をいただけることになりました。これまでのマスタークラスでは、参加者の 7～8 割の方が追加レッスンを希望しています。特に受験を考えていらっしゃる方々においては、教授陣が 4 回以上のレッスンを推奨しております。

<レッスン内容>

・チューリッヒ芸術大学教授等による個人レッスン

・**45 分×2 レッスン**（教授によっては 2 回分のレッスン（90 分）を続けて行う場合もございます）

・レッスン以外の時間は他の受講者のレッスンを聴講必須

※他の専攻の生徒様たちの演奏を聞き、教授のレッスンを体験する貴重な機会となります。

※申し込み時に提出されたレッスン曲目は、事前説明会にて教授陣アシスタントの先生に相談することも可能です。

<スイス国立チューリッヒ芸術大学教授> ※原則として教授の希望を承ることはできません

ピ ア ノ 科：

Karl Andreas Kolly（カール・アンドレアス・コリー）

Hans Juerg Strub（ハンス・ユルグ・シュトループ）

Eckart Heiligers（エッカルト・ハイリガーズ）

Konstantin Scherbakov（コンスタンチン・シェルバコフ）

ヴァイオリン科：

Rudolf Koelman（ルドルフ・コエルマン）

Andreas Janke（アンドレアス・ヤンケ）

Matthias Enderle（マティアス・エンデレ）

Bartek Niziol（バルテック・ニジオル）

ヴィオラ科：

Wendy Enderle（ヴェンディ・エンデレ）

チェロ科：

Mrtina Schucan（マルティナ・シュカン）

フルート科：

Sabine Poyé-Morel（ザビーネ ポワイエ モレル）

オーボエ科：

Martin Frutiger（マルティン・フルティガー）

Matthias Arter（マティアス・アルター）

* ベルン芸術大学でのレッスンとなります。

クラリネット科：

Fabio Di casola（ファビオ・ディ・カソラ）

トランペット科：

Claudio Rippers（クラウディオ・リップパーズ）

Laurent Tinguely（ローラン・ティンゲリー）

サクソフォン科：

Jean George Koerper（ジーン・ゲオルグ・ケルパー）

Lars Mlekusch（ラース ムレクシュ）

トロンボーン科：

David Bruchez（ディビッド ブルチェス）

ユーフォニアム科：

Thomas Ruedi（トーマス・リュエディ）

※ベルン芸術大学にてレッスン開催

チューバ科：

Anne Jelle Visser（アン・ジェリ・ヴァイザー）

声楽科：

Sebastian Geyer（セバスチャン・ガイアー）

Malin Hartelius（マリン・ハルテリウス）

※ベルン芸術大学にてレッスン開催

<修了証>

マスタークラス修了日に担当教授より修了証が授与されます。

<参加資格>

●音楽の勉強に意欲的かつ健康上の問題がなく、団体行動のルールを理解し守ることのできる方

●ヴァイオリン受講者のみ、教授によりレベル制限があるため音源審査を実施

-バガニーニ無伴奏カプリス

-イザイ無伴奏ソナタの一楽章

以上の演奏映像を収録した DVD の送付あるいは動画サイトへの投稿のいずれかの映像による審査となります。

詳細はお問合せください。

<定員>

6 名

最少催行人数 3 名

<渡航日程>

日程 2026 年 3 月 1 日（日）日本発 ～ 3 月 9 日（月）日本着（3 月 8 日現地発）

<宿泊及び参加費用>

480,000 円

【上記費用に含まれるもの】

- 1) マスタークラス申込金および受講費、聴講費 ※追加レッスン代金は別途
- 2) ホテル宿泊代金（1 人部屋 6 泊分・朝食込み）
※2025 年 10 月時点の費用のため、変動する可能性があります
- 3) 食事代金（夕食 4 回）※初日の夕食は含まれません
- 4) 現地教授陣アシスタントの先生（通訳兼務）同行費 ※東京国際ツアーズより派遣
- 5) 海外送金手数料

【上記費用に含まれないもの】

下記の費用は含まれておりません。別途お支払いをお願い致します。

- 1) 事務手数料 22,000 円
- 2) 往復航空券 ※下記オプションをご参照ください
- 3) 昼食時および夕食時の飲み物代
- 4) 現地での移動に伴う交通費および自由行動中にかかる費用

【オプション】

<航空券>

3 月 1 日（日）東京（成田）発→3 月 9 日（月）東京（成田）着予定

航空券手配に伴う諸費用（燃油代金、国内空港使用料等、航空保険料、現地国際空港税）は、含まれておりません。

【スイス航空】※直行便利用

～11 月 25 日（火）までにお申し込みの場合：215,000 円（燃油・諸税別途）

<申込締切日>

11 月 25 日（火）12:00 必着

【限定 早期割引】3 組限定 215,000 円（燃油・諸税別途）で手配を承ります。

上記期間以降の料金につきましてはお問合せください。

※2025 年 10 月 23 日現在のレートのため、空席状況や料金変動することがあります。

【トルコ航空】※乗り継ぎ便（1 回）利用

～11 月 25 日（火）までにお申し込みの場合：135,000 円（燃油・諸税別途）

<申込締切日>

11 月 25 日（火）12:00 必着

【限定 早期割引】3 組限定 135,000 円（燃油・諸税別途）で手配を承ります。

上記期間以降の料金につきましてはお問合せください。

※2025 年 10 月 23 日現在のレートのため、空席状況や料金変動することがあります。

～宿泊・食事について～

※滞在先ホテルは 1 人部屋を基本としております。友人同士やご家族でご参加の場合は 2 人部屋の手配も可能です。

※朝食・昼食・夕食代込み（自由行動日は各自負担）。お食事は原則皆様で一緒にお召し上がりいただきます。

指定された時間には遅れないようにお集まりください。個別手配や返金対応は一切いたしません。

※チューリッヒ芸術大学およびベルン芸術大学への往復およびレッスンにおいては教授陣アシスタントの先生が同行

します。

※宿泊ホテルは指定した 1 箇所での滞在となり、教授陣アシスタントの先生も一緒に滞在いたします。

※滞在中は団体行動となります。お互いに配慮した行動をお願いします。

～渡航について～

※現地ホテルで教授陣アシスタントの先生が出迎えます。日本からの添乗員の同行はございません。

渡航時の注意点等については、説明会でご案内いたします。

※マスタークラス終了後の延泊期間については、ご自身の責任において行動していただくこととなりますので予めご承知おきください。

※お申し込み後、12 月 16 日（火）の締切日に催行可能かどうかの判断を行います。12 月 19 日(金)までに催行の可否をお申し込みいただいたみなさまにメールにてお知らせします。

ご案内後、利用飛行機会社の手配をお願いします。

手配完了後、航空券会社、便名、出発および到着日時の記載された控えを東京国際ツアーズまで PDF 添付にて 12 月 20 日（土）12 時までにお知らせください。なお、ご自身で手配した飛行機の遅延等によって集合時間に間に合わない場合、また延着のためレッスンに間に合わない場合の責任は一切負いません（受講費・聴講費・ホテル代金等の返金はありません）。ご自身の責任においてご対応をお願いいたします。

※集合場所は現地ホテルです。

Hotel St. Georg Einsiedeln

(ホテル ザンクト ゲオルク アインジューデルン)

Hauptstrasse 72 CH-8840 Einsiedeln

※場合により、同等クラスのホテルに変更になることがございます。



指定以外のホテルをご自身でご予約する場合は、ご自身の責任において当日集合時刻までに現地集合場所ホテルまでお集まりください。レッスン会場への移動は、現地ホテル集合した後、皆さま全員で移動します。

ホテルをご自身でご予約いただく場合は、上記金額より 120,000 円を差引します。

本ツアーにおいては、集合時刻厳守のため皆様同じホテルをご予約いただくようお願いしております。

集合時刻に間にあわずレッスンを受けることができなかった場合の責任は一切負いません

（受講費・聴講費・ホテル代金、その他諸費費用等返金はありません）。ご自身の責任においてご対応をお願いいたします。

※参加人数が 3 名に満たない場合には、マスタークラスを実施しませんので、航空券購入については実施確定後お願いいたします。催行不可になった場合の航空券購入金額やホテル キャンセル代など渡航に係る費用による損害について弊社は責任を負いません。

※保護者様のご同行につきましてはレッスンの聴講費は 1 名様までは無料、2 名様以上の場合は受講費の半額（250 スイスフラン 48,250 円）をお支払いいただきます。なお、保護者様の期間中の単独行動はできません。全ての行動に同行していただきますので予めご了承下さい。

～生活・費用等について～

※安全管理のため、夕食後ホテルに戻って以降のホテルからの外出は、原則としてご遠慮いただきます。

※ホテル室内での練習は決められた時間のみ可能です。

※事前説明会において、曲目に関するアドバイス、レッスンの形態、現地での生活などの様々な疑問に対して、現地教授陣アシスタント兼通訳の先生がお答えします。説明会でご説明した内容については、遵守していただきます。また、留学をお考えの方々に対してはアドバイスもいたします。説明会は一括説明の後に、個別質問、その後個別相談という流れになります。

＜申込方法＞

お申込金（内金）として 50,000 円を以下の口座にお振り込みの上、募集要項巻末 QR コードもしくは HP の申込フォームからお申込みください。パスポートコピー、振込明細書（お客様控え）のコピーを申込フォームに記載の info@ti-tours.com まで添付にてご提出ください。

※パスポートを取得予定の方はその旨を申込フォームに記載の上、速やかに申請手続きを行い、コピーをご提出ください。

【お申込金振込先口座】

巢鴨信用金庫 西日暮里支店 普通口座 3187715 株式会社東京国際ツアーズ

※お申込みが定員に達せずマスタークラスが開講されない場合、お申込金は全額返金いたします。

<申込締切日>

2025 年 12 月 11 日（木） 12：00 必着

※締切日以前でも、定員になり次第、受付を終了いたします。

<キャンセルについて>

お申し込み後のキャンセルの場合、以下のとおり所定のキャンセル料を申し受けます。

- | | |
|--------------------------|------------|
| ○渡航 40 日前から 31 日前までの取り消し | 渡航費用の 10% |
| ○渡航 30 日前から 3 日前までの取り消し | 渡航費用の 20% |
| ○渡航前々日から当日までの取り消し | 渡航費用の 50% |
| ○無連絡不参加及び旅行開始後の取り消し | 渡航費用の 100% |

ただし、事務手数料 22,000 円ならびにマスタークラス申込金は理由の如何を問わず、お申込後のご返金はいたしかねます。また、レッスン受講確定後のキャンセルの場合、マスタークラス受講費についてもご返金はいたしかねます。

<その他>

※このマスタークラスではコンクール・オーディションにおいて成績優秀者（下記対象者）に受講費免除推薦が認められています。

・2024 年 1 月～2025 年 12 月までに東京国際芸術協会主催コンクールにて入賞・入選、新人演奏会

オーディションにて合格・准合格された方

・2024 年春期～2026 年春期海外音楽大学派遣助成オーディションにて合格・准合格された方

ご参加にあたってはご滞在期間をカバーする海外旅行保険の加入が義務付けられています。

クレジットカード付帯の保険は認められておりません。必ず保険会社の海外旅行保険にご加入ください。

弊社がお勧めする海外旅行保険については、お申込み後にご案内いたします。

<オンライン説明会（ご出発前のオリエンテーション）へのご参加について>

本マスタークラスのご参加に際しては、2026 年 1 月中旬～下旬頃開催予定のオンライン説明会へのご参加が必須となります。日程等の詳細については、決定次第お申込者様にご案内いたしますので、必ずご出席くださいますようお願いいたします。

本マスタークラスへのお申し込みは、こちらの QR コードからお願いいたします。



株式会社東京国際ツアーズ 池袋支店

観光庁長官登録旅行業 1353 号 （社）日本旅行業協会正会員

〒170-0013 東京都豊島区東池袋 1-31-13

TEL&FAX 03-5927-1069 info@ti-tours.com

＜教授陣プロフィール＞



Karl Andreas Kolly（カール・アンドレアス・コリー）教授 《ピアノ科》

教会オルガニストである父親 Karl Kolly と Karl Grenacher からピアノレッスンの手ほどきを受け、Zuerich Musikakademie にて Hans Schiker の元で学ぶ。ベルンでは Karl Engel のマスタークラスを受講、1991 年には最優秀ソリストディプロマである Eduard Tschumi Preis を受賞。ルツェルンでは Mieczyslaw Horczowski のマスタークラスを受講し、Jecklin コンクール第一位、チューリッヒでは Landolt und Hochschul 賞、Prix Maurice Sandoz 内のコンクール第一位など数々のコンクールを制覇する。

全ヨーロッパ、日本、韓国、オーストラリア、アメリカ合衆国でソロピアニスト、室内楽ピアニストとして、多くのコンサートを行い、大成功を収める。また、インターナショナルミュージックフェスティバルルツェルン、パッサウとドナウでのフェスティバルなどにも参加。チューリッヒトーンハレオーケストラ、ベルンシンフォニーオーケストラ、スロヴァキアラジオシンフォニーオーケストラ、バルセロナ オーケスタ シンフォニーなどと共演。室内楽ピアニストとして Trio Novanta を結成し、ブラームス、フランクの全作品集を演奏する。1992 年にはシューマンの演奏と共に初 CD を作り、好評を博す。それ以来、30 枚以上の CD を作成している。現在はチューリッヒ国立音楽大学大学院で教授として指導にあたっている。

＊音楽史やヨーロッパ史に博識で、ピアノの演奏だけでなく、様々な作曲家のエピソードも聞くことの出来る教授です。



Eckart Heiligers（エッカルト・ハイリガーズ）教授 《ピアノ科》

Karl-Heinz Kämmerling の元で Hannover 音楽大学を卒業し、Baltimore では、Leon Fleischer の元で学ぶ。様々な奨学生に選ばれる。（USA. Stipendiat der Studienstiftung des Deutschen Volkes, des DAAD und des Deutschen Musik- wettbewerbs. France Graage Performance Scholarship）Vercelli, Athen, Salt Lake City und Oslo 等の国際コンクール優勝者であり、

ソリスト・室内楽奏者・歌曲伴奏者として、世界中でコンサートを行っている。また、国際コンクールでの審査員も務める。

＊ヨーロッパで 1 番のトリオと言われている Jean Paul Trio のピアニストでもあるエッカルト・ハイリガーズ。テクニックと共にダイナミックかつ繊細な音楽性を兼ね揃える彼は、CDリリースにおいても絶賛されています。



Hans Juerg Strub（ハンス・ユルグ・シュトループ）教授 《ピアノ科》

Christoph Lieske による指導を Winterthur 音楽院で受け、すでにこの時から数多くのコンクールで優勝する。14 歳でオーケストラとの共演を果たし、16 歳でピアノリサイタルを開催し、スイス国営ラジオによってレコーディングも行われる。Hannover 音楽大学では、Prof. Hans Leygra の元で学びコンサートディプロムを取得する。Tatjana Nikolajewa, Gaby Cassadesus、Zoltán Kocsis、György Kurtág のマスタークラスで研鑽を積み、後の音楽性の発展に大きな影響を与える。

1981 年に Jaén 国際コンクールで 3 位となり、1 年後 ドイツ音楽大学コンクールで 2 位を獲得する。《Concours Piano 80》では 3 度の優勝を果たし、1986 年には、《Festival International de Jeunes Solistes》in Bordeaux にて銀メダルを獲得する。Hannover で後進の指導にあたった後、1988 年よりチューリッヒ芸術大学で教鞭と取る。1997 年には、日本でもマスタークラスを行い、2006 年にはゲオルギアの名誉教授となる。ソリスト、室内楽奏者として、ドイツや日本でもリサイタルを行い、Tonhalle-Orchester Zürich und dem Stadtorchester Winterthur との共演や Gerd Albrecht, Mario Venzago, Theodor Guschlbauer, marc Tardue 等と共演する。ラフマニノフピアノ協奏曲や、ブラームス、シューマン等の CD をリリースしている。

＊音色の色彩の美しさにピアノの音の奏で方の多様性を学ぶ事が出来ます。彼の持つ音の世界には何万もの可能性がある事を知る事が出来ます。



Rudolf Koelman（ルドルフ・コエルマン）教授 《ヴァイオリン科》

アムステルダム音楽院で学び、1978 年から 1981 年に Jascha Heifetz 最後の弟子として、ロサンゼルス南カリフォルニア大学で学ぶ。その後 1999 年までロイヤルコンセルヘボールオーケストラ（オランダ）コンサートマスターを務める。コンサートツアーを行うと同時に数多くの CD 録音を行う。チューリッヒ音楽大学教授であると同時に、シドニー音楽院初め多くの客員教授として各国から招聘されている。

＊2 年先の夏期講習の予定まで埋まっているルドルフ・コエルマンは、ハイフェッツから受け継がれた音色と共に、テクニックの素晴らしさと音楽性を兼ね揃えるヴァイオリニストです。学内でも室内楽オーケストラを結成し、精力的に世界中を飛び回っている彼からのレッスンはまたとない機会となるでしょう。（受講にあたりレベル制限あり）



Andreas Janke（アンドレアス・ヤンケ）教授 《ヴァイオリン科》

Andreas Janke は、Tonhalle-Orchesters Zürich のコンサートマスターを務める。

ミュンヘンで生まれ、モーツァルテウム ザルツブルク大学ではソロを Prof. Igor Ozim.に師事、室内楽を Hagen-Quartett に師事様々な国際コンクール Königin Elisabeth Wettbewerb in Brüssel、Wettbewerb"Prager Frühling“ で優勝し、全ヨーロッパおよび日本で公演を行う。London Symphony Orchestra, Royal Philharmonic Orchestra, Tonhalle-Orchester Zürich、

die Academy of St.Martin in the Fields.と共演。様々な音楽祭にゲストとして迎えられる。ソニーとも契約を結び、定期的にCD もリリースしている。2 0 1 3 年からチューリッヒ芸術大学で教授を務める。

＊史上最年少でチューリッヒ芸術大学の教授となり、次世代を背負うヴァイオリニストとして、今ヨーロッパで注目の一人です。（受講にあたりレベル制限あり）



Wendy Enderle（ヴェンディ・エンデレ）教授 《ヴィオラ科》

Matthias Enderle（マティアス・エンデレ）教授 《ヴァイオリン科》

研ぎ澄まされた表現力、驚くべき完成度、そして比類なき音楽性を兼ね備えた弦楽四重奏団。1984 年にスイスで結成。「パオロ・ボルチアーニ賞」国際弦楽四重奏コンクールで大成功をおさめ(1 位なしの 2 位)、国際的メディアで報じられたことで、その名を世界中に轟かせることとなった。「将来は約束された」(ファイナンシャル・タイムズ)と評され、今まさに世界をリードする弦楽四重奏団である。シャëndル・ヴェーグ、アマデウス弦楽四重奏団、ラサール弦楽四重奏団等に師事。ニコラウス・アーノンクールとの出会いは、彼らにオーセンティックな(古楽)奏法への強い創造的関心を引き起こした。内田光子、エリザベス・レオンスカヤ、エマニュエル・パユ、トルルス・モルク、ヴォルフガング・マイヤー、ザビーネ・マイヤー、アントニオ・メネセス、ヴェロニカ・ハーゲン、オラフ・ベアー、ヴォルフガング・ホルツマイアー 等と共演するなど、その活動の幅を広げている。批評家から高い評価を受けた DENON のシリーズでは英グラモフォン賞、仏ディアパゾン・ドール、仏ル・モンド・ドゥ・ラ・ミュージック誌の Choc(最高評価)、ドイツ批評家賞など数々の賞を獲得し、グラミー賞にもノミネートされた。田部京子と共演した CD「シューベルト：ピアノ五重奏曲『ます』、シューマン：ピアノ五重奏曲」が音楽之友社主催、2008 年度レコードアカデミー賞の室内楽部門賞を受賞。現在、スイス ヴィンタートゥーアのチューリッヒ音楽大学を拠点として、自らの豊かな経験と優れた芸術性を次の世代へ伝えている。

＊各教授が、個々に素晴らしい音楽性を持ち、日本でも大好評を博しているカルミナ四重奏団のメンバーは、チューリッヒ芸術大学でも客員教授の地位にあり、個人レッスンを受けられる機会はとても貴重です。日本での公演やCDリリースも行っています。



Bartek Niziol（バルテック・ニジオル）教授 《ヴァイオリン科》

ローザンヌ音楽院でピエールアモイに師事。ポズナン音楽院の学生時代である 1991 年に国際ウイニアフスキーコンクール及びアデレードヴァイオリンコンクールで優勝し、センセーショナルなデビューを飾る。プレトリア国際音楽コンクールやブリュッセルのユーロヴィジョンコンクール、ロン＝ティボー国際コンクールでも優勝。これらの優勝経験は、彼を世界的に有名にし、イングリッschチェンバーオーケストラ、フランス ラジオフィルハーモニーオーケストラ、北ドイツ放送オーケストラ、新日本フィルハーモニー、等と共演する全ヨーロッパ及びアジア、アフリカ、南アメリカでコンサートに招聘される。また、エリザベスレオンスカヤピンカーツッカーマン等とも室内楽で共演をする。2011 年には、ショパン音楽祭に於いて、マルタアルゲリッチと共演をする。2008 年にベルン芸術大学の教授となる。また、ウイニアフスキー国際コンクールの審査員を務めている。



Martina Schucan（マルティナ・シュカン）教授 《チェロ科》

14 歳の時よりデトモルトでアンドレナヴァラ（D）のマスタークラスを受講。卒業後、ハインリッヒシフ、ダニエルシャフランとヤーノシュシュタルケルの元で研鑽を積む。 フィレンツェでのガスバルカサドコンクールで一等賞を初め、国際コンクール多数受賞、世界中でのコンサート活動を行う。バンベルク交響楽団、メトロポリタンオーケストラ東京などの著名なオーケストラと共演、管弦楽団

スイスロマンド管弦楽は、トーンハレ管弦楽団チューリッヒ等と競演、ルツェルン、シュレースヴィヒ＝ホルシュタイン州、ウィッテン、シュヴェツィンゲン、モンペリエ、ブラチスラバ、北京の国際映画祭等に招聘される。室内楽奏者としても、クフモ室内楽音楽祭、ブロイセンコープ、ダボスに参加し、ユーリバシュメット、ジョルジ Kurtág、ハインツホリガー、ラファエルオレグ、ヴェロニカ・ハーゲン、ヨーグウィッテンバッハ、カルミナ四重奏団などと共演をする。

＊現在は室内楽やソリストとして、世界中を飛び回っているマルティナ・シュカンは指導者としても定評があり、毎年バプロカザルスフェスティバル等主要音楽祭へも招聘されています。2012年度はルツェルン夏の音楽祭でも招聘演奏を行う等活躍しています。



Sabine Poyé-Morel（ザビーネ・ポワイエ・モレル）教授 《フルート科》

トゥールで生まれ、イザベル・オリエ＝グランジュポンテのフルート学校に通う。彼女は 1997 年にパリ国立高等音楽院でピエール＝イヴ・アルトーに師事し、フルートと室内楽部門で一等で卒業。サビーヌ・ポイエ・モレルは、ブカレスト、パイロイト、神戸、ジュネーブなどの最も重要な国際コンクールで優勝。 22 歳でロレーヌ国立管弦楽団のソロフルート奏者となる。 2002 年に

チューリッヒ・トーンハレ管弦楽団のソロ・フルート奏者となった。H.プロムシュテット、D.ジンマン、P.ヤルヴィ、F.ヴェルザー＝メスト等と共演。2021 年 8 月、チューリッヒ芸術大学の教授となる。



Martin Frutiger（マルティン・フルティガー）教授 《オーボエ科》

マルティン・フルティガーはチューリッヒ・トーンハレ管弦楽団の首席イングリッsch・ホルン奏者。 2023 年にチューリッヒ芸術大学のオーボエ教授に任命される。ソリストや室内楽奏者としても定期的に演奏している。コンサートやマスタークラスへ招聘され、彼はヨーロッパ、アジア、アメリカで演奏している。管楽器五重奏団「Swiss5」のメンバーであり、ルツェルン祝祭管弦楽団とパイロイト祝祭管弦楽団でイングリッschホルンのソロ奏者として演奏している。 マルティン・

フルティガーは、ベルン音楽院でハンス・エルホルスト教授から、ミュンヘン音楽大学でギュンター・パッシン教授から

指導を受ける。その後、カラヤン・アカデミーの一員としてベルリン・フィルハーモニー管弦楽団と 2 年間共演した。ハレ・アン・デア・ザーレのヘンデル・フェスティバルの国際オーボエ・コンクールで優勝した。 2003 年 10 月東京で開催された国際オーボエコンクールで第 2 位を受賞。同年、ヨーロッパ放送局（EBU）の新人コンテストのファイナリストにも選ばれる。 ソリストとして、ベルン交響楽団、ルツェルン交響楽団、スロバキア放送交響楽団、東京フィルハーモニー交響楽団、ミュンヘン室内管弦楽団、バーゼル室内管弦楽団、シビウ・フィルハーモニー（ルーマニア）、カペラ・イストロポリターナなどと共演。 2007 年 1 月にはスタニスワフ・スクロヴァチェフスキの指揮の下、チューリヒ・トーンハレ管弦楽団と共演し、スタニスワフ・スクロヴァチェフスキのイングリッsch・ホルン協奏曲のソリストを務めた。



Fabio Di casola（ファビオ・ディ・カソラ）教授 《クラリネット科》

1998 年にジュネーブでのスイス最優秀音楽家賞を受賞し、1991 年 Winterthur 市立管弦楽団ソロクラリナティストとなる。Evian でのフェスティバルでその才能を Mstislav Rostropovic に発掘される。HeinzHolliger は Sandor Veress のソロクラリネットティストとして抜擢され、1995 年には Mikhail Pletnev の指揮の下ロシア 国立オーケストラでのソリストを務める。ジュネーブでの CIEM 国際コンクール第一位、Stresa 現代音楽国際コンクール第一位、Prix Suisse の Grand Prix Patek Philippe 第一位。

＊現在は、ザビーネ・マイヤーやカール・ライスターと共にARD国際コンクールの審査員も務め、世界の第一線で活躍しています。音色の美しさや多彩な色彩感と共に奏でられる音楽にはクラリネット音楽の大きな可能性を感じます。



Lars Mlekusch（ラース・ムレクシュ）教授 《サクソフォン科》

彼はバーゼル音楽大学（マークス・ワイスに師事）、ノースウェスタン大学シカゴ（フレデリック・L.ヘムケに師事）でサクスを学び、プライベートではアムステルダム（アルノ・ボルンカンブに師事）とパリ（クロード・ドゥラングルに師事）でサクスを学ぶ。ウィーン・モダン、ハダースフィールド現代音楽フェスティバル、メロス・エトス・ブラチスラヴァ、インパルス・フェスティバル・グラーツ、クランプファド・シュヴァーツ、ザルツブルク・アクトゥエルなどの

フェスティバル等でソリストとして招聘される。アンサンブル PHACE、コレギウム・ノヴム・チューリッヒ、シュトゥットガルト室内管弦楽団、クラングフォーラム・ウィーン、オーストリア・ニュー・ミュージック・アンサンブル、ノイエ・ヴォーカルリステン・シュトゥットガルト、スロバキア放送交響楽団、チューリヒ・トーンハレ・オーケストラ等のソリストを務める。アン・シエル、アンサンブル・シャルフェルト、アンサンブル・カントウス・ザグレブ、ル・ヌーベル・アンサンブル・コンテンポラン、グルジア室内管弦楽団インゴルシュタット、キューバ国立交響楽団と共に 20 世紀から 21 世紀の音楽にも焦点をあてて演奏会を行っている。多数の指揮者と共演（ベルンハルト ラング、サラ ネムツォフ、エドゥ ハウベンサック、アウレリアーノ カッタネオ、クラウス ラング、ヴォルフガング ミッテラーなど）している。ピエルイジ ビローネ、ヘルムート ラッヘンマン、ジョルジュ アペルギス、ホセ マリア サンチェス ヴェルドウなどの作曲家とも共演を行う。チューリッヒ芸術大学（ZHdK）でサクス、室内楽、現代音楽の教授として教鞭をとっています。以前は、ウィーン音楽芸術私立大学（旧ウィーン私立大学音楽院）で大学教授として教鞭を執っていた。 世界中の有名な大学（パリ国立高等音楽院、アムステルダム音楽院、ニューイングランド音楽院、マンハッタン音楽院、イーストマン音楽院、ノースウェスタン大学シカゴ、マギル大学、ロンドン王立音楽大学、ショパン音楽大学ワルシャワ）でコースを教えている。 北京中央音楽院、東京国立音楽大学、洗足音楽大学、サンクトペテルブルク音楽院など）にも招聘され、レッスンをを行う。



Laurent Tinguely（ローラン・ティンゲリー）教授 《トランペット科》

1967 年 生まれ。父親の指導の下 9 歳からトランペットを始める。 フリブール音楽院(スイス)では Philippe Baud と Jean-François Michel に師事。1987 年以降ソロトランペット奏者として、チューリッヒオペラハウスオーケストラに所属する。ゲスト奏者としても国内外のオーケストラから招聘を受ける。 Franz Welser-Möst, Daniele Gatti, Bernard Haitink, Zubin Mehta, Nikolaus Harnoncourt, Nello Santi ,Christoph von Dohnányi 指揮の下、様々なツアーに参加する。様々な国際コンクールでの優勝経験を持ち、音楽祭にも多数参加。



David Bruchez（デイビッド・ブルチェス）教授 《トロンボーン科》

2015 年からチューリッヒ ユーゲンドオーケストラの指揮者を務めている。2005 年からチューリッヒ・トーンハレ管弦楽団のソロ・トロンボーン奏者を務めている。 1996 年にフランツ・ヴェルザー＝メストがチューリッヒ・オペラ管弦楽団に推薦。2005 年にデヴィッド・ジンマンが彼をチューリッヒ・トーンハレ管弦楽団のソロ・トロンボーン奏者として迎え入れた。2007 年にアスピンのアメリカ指揮アカデミーに招聘される。ローザンヌ

オペラ座で 15 歳でデビュー。ワルシャワで開催された「ユーロビジョン・ヤング・ミュージシャンズ」の決勝に進出した最初の金管奏者となった。ジュネーブ音楽コンクール、ブラチスラヴァの「ユネスコ国際音楽トリビューン」、およびスイス青少年音楽コンクールの優勝者。エルンスト・ゲーナー財団とキーファー・ハブリッツェルの奨学金を得る。ローザンヌの音楽院で学び、ソリストの資格を取得した後、ヘルベルト・フォン・カラヤン・アカデミーのベルリン・フィルハーモニー管弦楽団と共演。ソリストとして、スイス・ロマンド管弦楽団、ワルシャワ国立管弦楽団、クレメラータ・バルティカ、ボツダム大学、スウィツェラ・イタリアーナ管弦楽団、ローザンヌ交響楽団、バーゼル交響楽団、ローザンヌ室内管弦楽団、トーンハレ管弦楽団などにソリストとして出演している。チューリッヒ、カメラータ・サンクトペテルブルク、スロバキア放送交響楽団と共演。 2010 年にはチューリッヒ・トーンハレ管弦楽団のコンサートに指揮者として参加。レパートリーは幅広く、ルネサンスから現代音楽までの作品が含まれる。ルネサンス作品をオリジナル楽器による自身のアンサンブル「オーラ・コンソート」で演奏。 2005 年、若干 29 歳でデトモルト音楽大学の教授に任命された。2008 年からチューリッヒ芸術大学の教授を務めている。



Thomas Ruedi（トーマス・リュエディ）教授 《ユーフォニアム科》

1969 年スイス、ベルン生まれ。11 歳で ユーフォニアムを始める。幼少の時から様々な学生コンクールで優勝するなど頭角を現した。1990 年から 95 年までイギリス、シェフィールド大学でユーフォニアム、指揮、作曲、編曲を学んだ。学生時代はイギリス国内の著名金管バンドでも活躍した。ソリストとして世界中のオーケストラ、吹奏楽団、金管バンドなどと共演、またソロ

リサイタルや室内楽のコンサートを精力的に行っている。A. Dubach, S. Carolino, P. MacCann など世界中の優れた共演者からインスピレーションを受け様々なプログラムに取り組んでいる。演奏家としての活動のほか、Musikhochschule Luzern、Hochschule der Künste Bern で教授としてユーフォニアム、室内楽の指導にあたっている。また世界各地でもマスタークラスや個人レッスンなどを行っている。ヨーロッパ、アメリカ、アフリカ、アジアなど世界中で精力的に活動。1999 年ミュンヘンで開催された European Solo Championships for brass players での優勝を始め、数々の国際コンクールでの入賞歴がある。これまでに「Elegie」, 「Synthesis」2 枚の CD をリリースしておりいずれも話題になっている。チューリッヒ・トーンハレ交響楽団を始めスイスの著名なオーケストラでの客演も務めている。

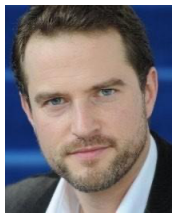
*** 日本での公開講座でも好評を博したトーマス・リュエディは、呼吸法や基礎的なテクニック等も含めて、とても丁寧なレッスンを行います。世界的に第一線で活躍をしている教授からのレッスンは、またとない機会になるでしょう。**



Anne Jelle Visser（アン・ジェリ・ヴァイザー）教授 《チューバ科》

1989 年から 1996 年まで North Holland Philharmonic Orchestra のチューバ奏者として活躍する。1999 年から 2014 年までチューリッヒオペラハウスオーケストラのソロ奏者を務める。 Zubin Mehta, Valery Gergiev, Bernard Haitink, Georg Solti, Franz Welser Möst, Daniele Gatti, Christoph von Dohnanyi, Nicolaus Harnoncourt, Ricardo Chailly ,Mariss Jansons 等の

指揮の下で演奏する。ゲスト奏者として、the Royal Concertgebouw Orchestra, Israel Philharmonic Orchestra, Bavarian State Opera Orchestra, Maggio Musicale Fiorentino, Tonhalle Orchestra Zurich,Mahler Chamber Orchestra ,the Singapore Symphony Orchestra.に招聘される。また、チューリッヒジャズオーケストラでも演奏をしている。ソロ奏者としても活躍しており、日本、中国、オーストラリア、台湾、シンガポール、タイ、香港、イタリア、フィンランド、ドイツ、オーストリア、チリ、フランス、スペイン、ノルウエー、ポルトガルでマスタークラスを行う。 Sergio Carolino (チューバ奏者)とデュオも組んでいる。CD もリリースし、Roger Bobo Award を受賞した。アムステルダムの Sweelinck Conservatory で学んだ。 Roger Bobo, Mel Culbertson,Rex Martin, Gene Pokorny, Donald Blakeslee, Warren Deck, Arnold Jacobs, Tommy Johnson, Bob Tucci ,Laszlo Szabo の下で学ぶ。彼の門下は、ドイツ、イタリア、フランス、スイス、スウェーデン、エストニア、中国のオーケストラでポジションを得ている。また国際コンクールに入賞している生徒も多い。インターナショナルヤマハパフォーミングアーティストでもある。



Sebastian Geyer（セバスチャン・ガイアー）教授 《声楽科》

1998 年以来オペラの舞台で 70 以上の役を演じ、2010 年からはフランクフルト・アム・マイン歌劇場のアンサンブルメンバーとして活躍している。最近では、『ARIADNE ON NAXOS』では音楽教師として、またシュトラウスの『CAPRICCIO』では伯爵としてステージに登場。フランクフルト歌劇場では、ドン・ジョヴァンニ、アルマヴィーヴァ伯爵、グリエルモ、パパゲーノなどのモーツァルトの役、ヘンデルのジュリオ・チェザレやテレマンのオルフェウスのタイトルロール、そして

マンフレッド・トロヤーンのエンリコのティト・ベルクレディや映画のセバスティアンなどの現代作品の役も歌う。2006 年から 2010 年までハイデルベルク劇場、2003 年から 2006 年までギーセン市立劇場のアンサンブルのメンバー。2006 年にハイデルベルク劇場の『ドン・ジョヴァンニ』で年間最優秀歌手（オーペルンヴェルト）にノミネートされ、チャイコフスキーの『エフゲニー・オネーギン』のタイトルロール、ドニゼッティの『愛の妙薬』のベルコーレ役、レオンカヴァッロの『I』のシルヴィオ役を演じた。パリアッチ、プッチーニの「ラ・ボエーム」ではマルチェロ役。 2013 年のエディンバラ国際フェスティバルでは、パーセルの『DIDO AND AENEAS』のアエneas役でデビューし、ゲスト契約によりシュヴェツィンゲン音楽祭、ザンクト・マルガレーテン音楽祭、シュトゥットガルト州立劇場、マンハイム国立劇場、ローザンヌ歌劇場などでバリトン歌手として活躍している。 ウィーン・フォルクスオーパーとヴィースバーデン州立劇場、カッセル州立劇場、ボン劇場、マインツ州立劇場、ヴッパータール劇場、フライブルク劇場、ダルムシュタット州立劇場、ワイマール国立劇場、ルツェルン劇場での公演に出演。ブラームスのレクイエム、ヘンデルのメサイア、メンデルスゾーンのエリヤ、バッハの偉大なオラトリオがレパートリーに含まれる。ルツェルン音楽祭の一環として、シューマンの「ファウストの場面」のタイトルロールで演奏されました。 2014 年にローザンヌオペラでシュペルトの『冬の旅』でデビューを果たした。 古楽アンサンブルのラ・スタジョーネ・フランクフルトのほか、ミュンヘン交響楽団、フランクフルト放送交響楽団、ケルンの WDR 放送交響楽団とも共演した。アイヴァー・ボルトン、コンスタンティノス・カリディス、タイタス・エンゲル、アンドレア・マルコン、コーネリアス・マイスター、インゴ・メッツマッハー、エリック・ニールセン、スティーヴン・スローン、オイゲン・ツィガーヌ、セバスティアン・ヴァイグル、アンドリー・ユルケヴィチ、ローター・ザグロセクなどの指揮者と共演している。1997 年にヴュルツブルク大学で音楽教育の分野で教授としてキャリアをスタートさせ、2011 年から 2018 年までマインツのヨハネス・グーテンベルク大学音楽大学で教授を務め、2019 年からはチューリッヒ芸術大学で教授を務める。



Malin Hartelius（マリン・ハルテリウス）教授 《声楽科》

***ベルン芸術大学でのレッスンとなります。**

マリン・ハルテリウスはウィーンで学び、オペラスタジオのメンバーであるマルガレーテ・ベンスの弟子であり、1990/91 年シーズンにはウィーン国立歌劇場のアンサンブルのメンバーとして活躍する。1991/92 年からチューリッヒオペラハウスに所属し、ソフィー、エルピラ、セルヴィリア、

魔笛のパミーナ、後宮から誘拐のコンスタンツェ、コシファンテのフィオルディリギ、コウモリのアデーレ、魔弾の射手のエンヒェン、ユダヤの女のアディーナ、ノリーナ、ルシオ・シッラのセリア、エストレッラ、エウドキシーを演じる。ゲスト出演により、ルートヴィヒスブルク音楽祭（1990）、シュヴェツィンゲン音楽祭（1991）、ザルツブルク音楽祭（1992、1996、2013）等に招聘される。彼女はフランクフルトではアディーナ、ベルリンではソフィー、パリではアデル、ハンブルクではコンスタンツェ、マンハイムではパミーナ、ミュンヘンではマルツェリンを演じるなど、ヨーロッパ各地にゲストとして招聘される。ウィリアム クリスティー、ニコラウス アーノンクール、リカルド シャイリー、ジョン エリオットガーディナー、チャールズマッケラス、フランツヴェルザーモースト等の指揮者、ウィーンフィルハーモニー管弦楽団、トンハレオーケストラチューリッヒ、クリーブランドオーケストラ、フィルハーモニアオーケストラ等と共演。ジュネーブ及びローザンヌでのスイスロマンドオーケストラとのコンサート、クリーブランドオーケストラとのブ람スのドイツレクイエム、フランツヴェルザーモースト指揮によるウィナー楽友協会でのコンサートは高く評価されている。

※ 全ての楽器での受講が可能です。他楽器で教授の詳細な経歴をお知りになりたい方は事務局までお問合せ下さい。



Matthias Arter（マティアス・アルター）教授 《オーボエ科》

***ベルン芸術大学でのレッスンとなります。**

マティアス・アルター（オーボエ奏者・作曲家）はチューリッヒ（ペーター・フックス、トーマス・インダーミュレに師事）とフライブルク・イム・ブライスガウ（ハインツ・ホリガーに師事）で学んだ。

現代音楽を専門とする室内楽奏者・ソリストとして早くから地位を確立した。現在はベルン音楽大学でオーボエと室内楽を指導するほか、ルツェルン音楽祭アカデミー（楽器指導）でも教鞭を執り、バーゼル

室内管弦楽団およびCNZ（チューリッヒ・コレギウム・ノヴム）の首席オーボエ奏者を務める。

さらに、ブレアート、CNZ、マニ・マニ・オーボエなど複数のアンサンブルやプロジェクトの芸術監督を務める。また、歴史的録音に基づく演奏解釈の学術的研究にも力を注いでいる。

2009 年には、1993 年から 2006 年にかけて作曲した自身のソロ作品を収録したポートレート CD が NEOS レコードより発表された。アルターの作曲活動は室内楽、声楽、管弦楽作品に及ぶ。2013 年には彼が積極的に普及活動を行う新楽器ルポフォン（低音オーボエ）のための初の協奏曲を作曲。近作『バッハの「リチェルカーレ・ア・6」による水彩画』はベルリン・コンツェルトハウス、ウィーン楽友協会、チューリッヒ・トーンハレ、ケルン・フィルハーモニーなど欧州主要ホールで演奏されている。

ソリストとして

（例：バーゼル室内管弦楽団、CNZ、コントレシャン、アンサンブル XXI、センチュリー・ウィーン、イ・テンピ、レマニック・ニュー・アンサンブルと共演）、ルツェルン音楽祭、ザグレブ・ビエンナーレ、ミグロス・クラシックス、フェスティバル・アルキペル、IRCAM パリ、ワールド・ミュージック・デイズなど数多くの音楽祭に出演している。



Konstantin Scherbakov（コンスタンチン・シェルバコフ）教授 《ピアノ科》

ロシア中南部（シベリア）に位置するアルタイ地方の首府バルナウルで 1963 年に生まれ、11 歳でベートーヴェンの《ピアノ協奏曲第 1 番》を演奏してデビューを果たした。まもなく、シェルバコフは、後に伝説的な存在となった音楽教師レフ・ナウモフに教える請うためにモスクワ・チャイコフスキー音楽院に移る。モントリオール、ボルツァーノ、ローマ、チューリッヒの有名国際コンクールで入賞した後、旧ソ連のすべての主要オーケストラと共演

を果たし、100 以上の都市でリサイタルを行った。1983 年にモスクワで行われた第 1 回ラフマニノフ・コンクールで優勝したシェルバコフは、現代のラフマニノフとしてルツェルン音楽祭において批評家から賞賛を受ける。1990 年には、イタリアの第 20 回アゾーロ室内楽フェスティバルで、シェルバコフの演奏を聴いたスヴァトスラフ・リヒテルが彼にお墨付きを与えたという、ラフマニノフのピアノ独奏作品全曲リサイタルを 4 回にわたって行い、これがシェルバコフの国際的なキャリアのはじまりとなった。

1992 年からはシェルバコフはスイスに居を移し、リサイタル、世界中のオーケストラ公演やツアー、ヨーロッパ全土放映、放送公演に加えて、彼のコンサート活動は、ザルツブルク、フランクフルト、ブレゲンツ、ボーデン湖、ルガーノ、エピアンとコルマルを含めた主要なフェスティバルにおよび、さらに、ルール・ピアノ音楽祭、バートキッシンゲン、シュールベルティアーデフェルトキルヒ、シュヴァルツェン、シンガポール・ピアノフェスティバル、フーズム希少ピアノ音楽祭、ベートーベン・フェスティバル、クラクフ、レバノン音楽祭、ライディングとワイマールのリスト・フェスティバル、ルツェルン・ピアノフェスティバルなどにまで広がっている。

驚異的な彼のレパートリーは、50 の協奏曲と 50 のリサイタル・プログラムを誇り、録音はバッハからヨハン・シュトラウス 2 世、スクリャービンあるいは、ベートーヴェンからニコライ・メトネル、レスピーギなどの作品を取りあげている。現在は、マルコ・ポーロ（ナクソスの姉妹レーベル）においてレオポルド・ゴドフスキーのピアノ曲全集に取り組んでいる。

ナクソスのリスト・ピアノ音楽シリーズでは、リストが編曲したベートーヴェンの交響曲全曲の中で《第 9 交響曲》が 2005 年ドイツ批評家賞を受賞した。同様に、ゴドフスキー作曲《ピアノソナタホ短調》の録音に対しても 2001 年にドイツ批評家賞が贈られている。彼の演奏によるショスタコーヴィチの《24 の前奏曲とフーガ》でも、ナクソスはカンヌのクラシック・アワード 2001 を受賞した。

チューリヒ大学の教授職にあり、ボルツァーノのブゾーニ、ARD ミュンヘン、およびワイマールのフランツ・リスト国際ピアノコンクールなど、国際ピアノコンクールで審査員を務める。